序　文

アジア諸国の仏教文化を研究対象とする本プロジェクトの三つのユニットの間で、問題意識を共有するために全体研究会を７回開催した。

昨年に引き続き、「アジアで活躍する仏教指導者」というテーマで、イギリスの仏教指導者サンガラクシタ師の下で仏門に入り、現在はインドのダリット仏教徒たちの指導者の一人であるローカミトラ師から、Non-monastic Buddhism（非僧院仏教）という、まるで親鸞聖人の既成仏教への挑戦を思い起こさせる、独自の取り組みについて報告を受けた。次に、台湾の尼僧教団の一つである香光尼僧団の仏学院の三人の尼僧から、活発に活動している台湾の尼僧たちの現状を報告していただいた。さらに、浄土真宗本願寺派浄運寺住職の白山義章師から、地域社会の中で仏教寺院の果たしうる役割について、自らの実践にもとづいて話していただいた。

「近代日本仏教」をテーマとする全体研究会では、駒澤大学の池上良正先生から「死者供養」について、名古屋工業大学の川橋範子先生から「仏教とジェンダー」について、そして、龍谷大学名誉教授の海谷則之先生からは「仏教と教育」について、それぞれ報告していただいた。「死者の行方」については、来年度の国内シンポジウムで取り上げる予定であり、「ジェンダーを語らない日本仏教に未来はあるか」という川橋先生の問いかけにも、今後答えていきたい。

浄土宗法性山安養寺の住職であり、インターネット上の彼岸寺の僧侶でもある松島靖朗師からは、インターネットを利用した宗教活動の現状と可能性について詳細な報告を受けた。

本プロジェクトの最終年度にあたる来年度は、日本仏教の現状とその可能性について積極的な提言をまとめられるよう、努力を積み重ねて行きたいと思っている。

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

センター長　桂紹隆